

V 施設整備計画

1 背景と必要性

門別競馬場は昭和 57～60 年度に整備した門別トレーニングセンターをベースに、平成 9 年度に競馬場化するとともに、平成 22 年度よりホッカイドウ競馬の唯一の開催場としています。

しかしながら、競馬場内のきゅう舎やアパート、装鞍所などの施設は、整備後 40 年近く経過し、老朽化により業務や生活に支障が生じるとともに、数多くの修繕が発生しています。また、住環境の悪化は、騎手やきゅう務員が定着しづらい要因の一つになっているほか、トレーニングセンターをベースとする競馬場のため、顧客エリアが狭く、業務エリアも競馬を実施する上で非効率な配置になっているなど様々な不具合があります。

ホッカイドウ競馬は馬産地に立脚し、「全国への競走馬の供給」や「軽種馬産地のセーフティネット」という役割を果たすとともに、地域経済・雇用、観光への貢献など社会経済基盤に大きな役割を担っていることから、将来に向けて持続的に継続していくため、競馬開催の基本となる競馬場内の老朽化した基幹施設配置の抜本的な見直しと更新整備が必要です。

この整備計画は、第 3 期北海道競馬推進プランの対応方向の一つとして、整備計画の方向性をとりまとめるものです。

2 概況

名 称	門別競馬場	
所 在 地	北海道沙流郡日高町駒丘 76 番地 1	
敷地面積	64.7ha(うちきゅう舎地区：155,000 m ² 、駐車場地区：15,998 m ²)	
主な施設	きゅう舎エリア	きゅう舎(調教師住宅、独身寮付属)38 棟等
	業務・住宅 エリア	厚生施設・調整ルーム 1 棟、管理事務所 2 棟、検体採取所 1 棟、装鞍所 1 式、馬診療所 1 棟、きゅう務員アパート 4 棟、職員住宅 2 棟等
	顧客エリア	A スタンド 1 棟、ポラリススタンド 1 棟、とねっこラウンジ 1 棟等
	走 路	外回り 1,600m、42 基の照明灯、屋内調教用坂路 900m
馬房数	912 馬房 (38 棟×24 馬房)	
居住可能数	348 世帯	

3 現状

(1) 施設の現状

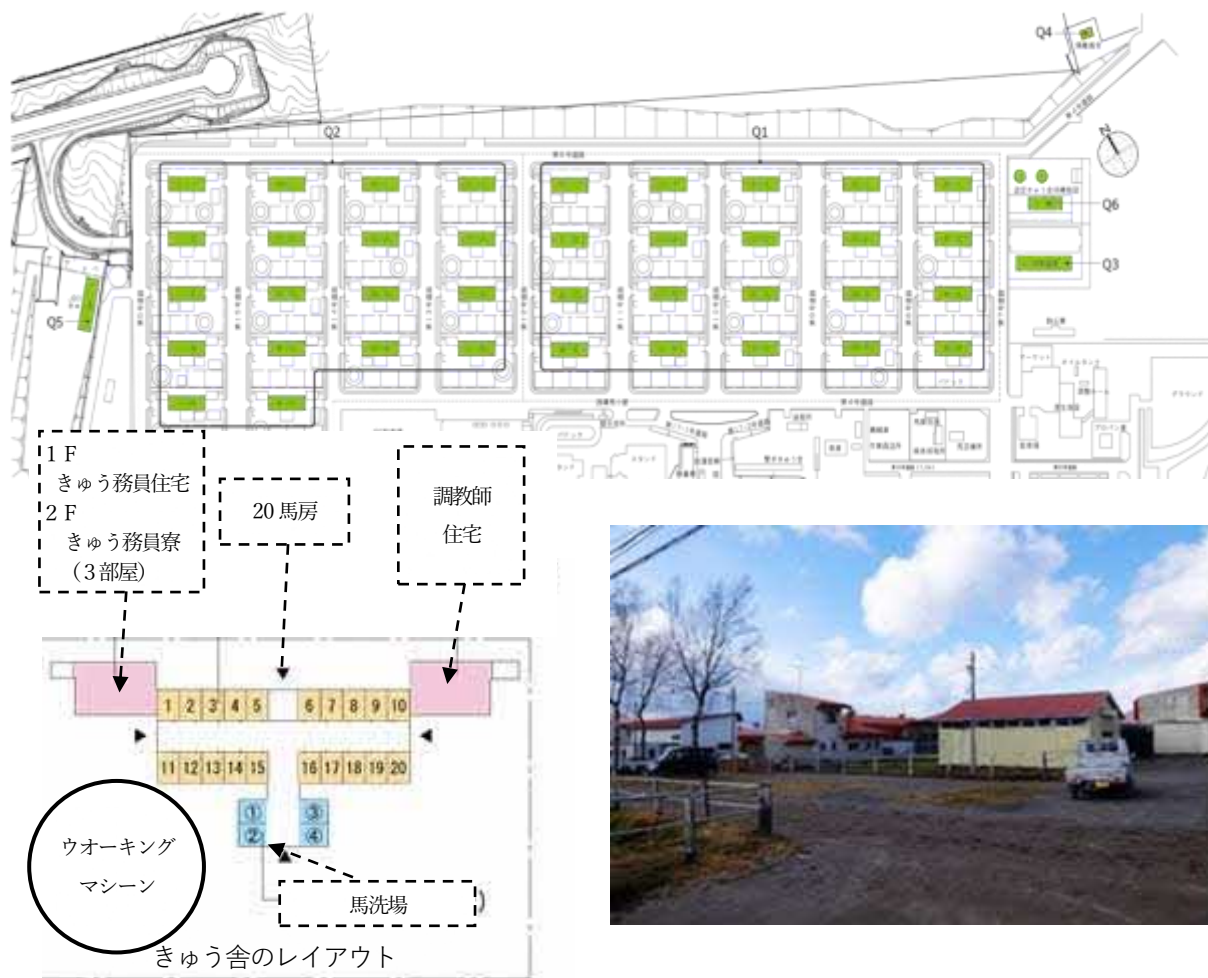
ア きゅう舎エリア

現在のきゅう舎は馬房、調教師住宅、きゅう務員住宅、独身寮が一体となった木造2F建てとなっていますが、以下のとおり様々な不具合が生じており、建て替えに当たっては馬房と居住を分離するなど抜本的な見直しが必要です。

■きゅう舎の不具合状況

- ・火災防止や公正確保の観点から、馬と人との分離が必要
- ・馬房が狭い（馬が壁を蹴飛ばし、穴を開ける）
- ・扉が脆弱であり、馬の脚が飛び出て怪我のおそれ
- ・老朽化とともに、柱や梁、屋根が朽ちてきている

図中	名称	棟数	建設年
Q1	きゅう舎・調教師住宅・独身寮	20	S57
Q2	きゅう舎・調教師住宅・独身寮	18	S60
Q3	交流馬房	1	H10
Q4	隔離きゅう舎	1	S57
Q5	JBC きゅう舎	1	H21
Q6	認定きゅう舎待機施設	1	H15



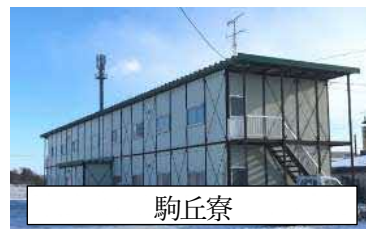
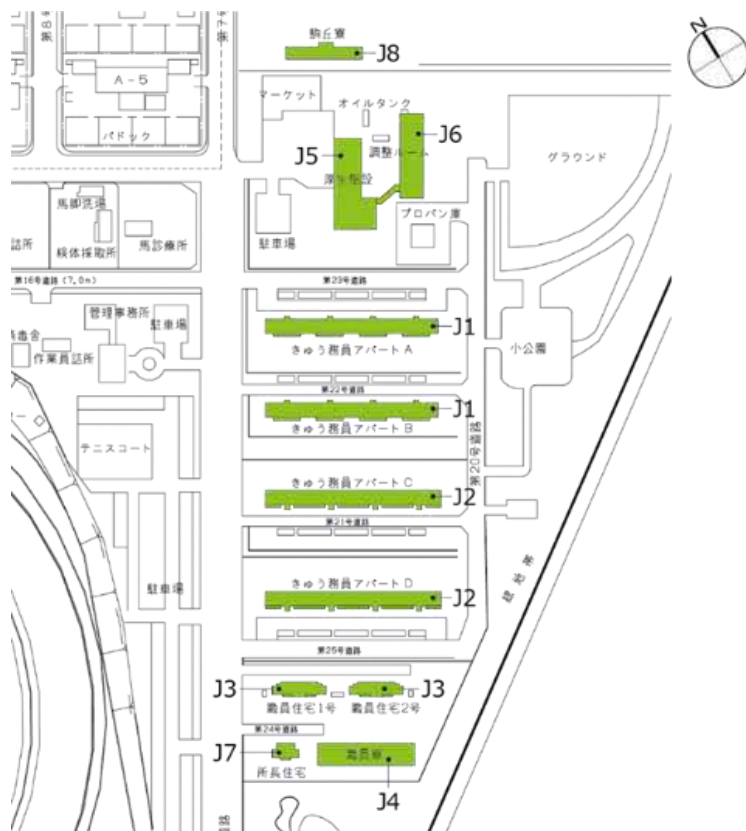
イ 居住エリア

居住エリアには、集合住宅としてのアパート4棟のほか、平屋の職員住宅、独身寮などが配置されていますが、老朽化に伴い様々な不具合が生じ、住環境が悪化しており、騎手やきゅう務員の定着のためにも、建て替えが必要です。

■アパート等の不具合状況

- ・屋根防水が劣化しており、雨漏りが発生している住戸がある
- ・冬期間は常に水道の水落としを行っており、寒冷地仕様になっていない
- ・集合煙突が凍結により機能していない
- ・蛇口から赤水が出てくる

図中	名称	棟数	取得年
J1	きゅう務員アパートA・B（北側）	2	S58 建設
J2	きゅう務員アパートC・D（南側）	2	S60 建設
J3	職員住宅	2	S57 建設
J4	職員寮（旧女子寮）	1	H9 建設
J5	厚生施設	1	S57 建設
J6	調整ルーム（厚生施設裏増築）	1	H9 建設
J7	所長住宅	1	S57 建設
J8	駒丘寮	1	H5 建設
J9	マーケット（トレビアン、トレショップ）	2	S57 建設



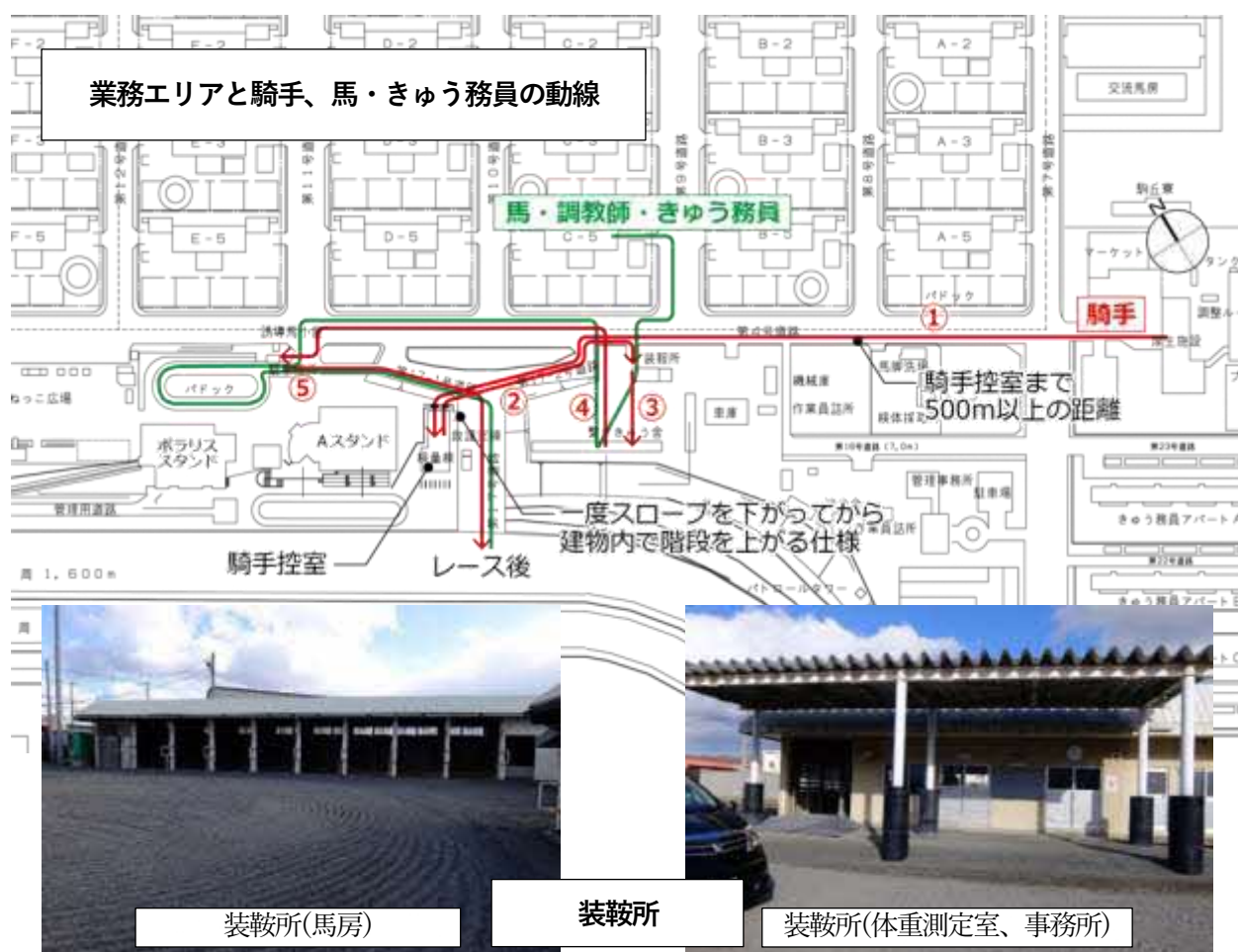
ウ 業務エリア

トレーニングセンターをベースとしているため、空きスペースに作らざるを得なく、競馬実施の面でも効率性や安全性の面で様々な不具合が生じており、整備に当たっては、業務の安全性や効率性などを確保する観点から、施設配置も含めて見直す必要があります。

■ 業務エリアの不具合状況

- ・ きゅう舎エリア含め、馬道と車道が一体となっており安全性の面で課題
- ・ 調整ルームと装鞍所・パドックなどの距離が離れているなど騎手や馬の動線が長く複雑になっており、非効率な施設配置になっている
- ・ パドックから本馬場へのアプローチが急な下り坂になっており、馬が怖がる

図中	名称	棟数	取得年
G1	管理事務所	1	S57 建設
G2	管理事務所増築棟	1	H21 建設
G3	作業員詰所	1	S57 建設
G4	検体採取所	1	H10
G5	装鞍所 (きゅう舎)	1	S57
G6	装鞍所 (きゅう舎増築)	1	H10
G7	馬脚洗場	1	H10
G8	装鞍所 (体重測定・事務所)	1	S57、H10
G10	馬診療所	1	H21



エ 顧客エリア

門別競馬場はトレーニングセンターをベースに競馬場化しているため、他の競馬場に比べて総収容人員は極めて少ない状況です。平成20年度の門別主場化以降、ポラリススタンドや新Aスタンドなどの施設を整備してきましたが、パドック周りやとねっこ広場などは、現状の施設配置上これ以上の拡大は不可能な状況となっています。

令和2年度以降JBC2歳優駿を継続開催することとしていますが、より多くの顧客を受け入れるためには、近年整備を進めてきたスタンド群を活用しながら、競馬場全体の施設配置見直しの中で、顧客エリアの拡大についても検討していく必要があります。

■ 競馬場の総収容人員

競馬場名	総収容人員(人)	川崎競馬場	39,000
門別競馬場	1,300	金沢競馬場	15,000
帯広競馬場	4,641	笠松競馬場	16,000
盛岡競馬場	6,000	名古屋競馬場	17,000
水沢競馬場	14,142	園田競馬場	17,352
浦和競馬場	30,000	姫路競馬場	15,400
船橋競馬場	30,606	高知競馬場	15,000
大井競馬場	56,000	佐賀競馬場	15,000

資料：平成26年度地方競馬施設概要(地方競馬全国協会)



オ その他

① 排水について

門別競馬場はきゅう舎側の北側から本馬場の南側に向かって傾斜が低くなる地形で、きゅう舎側に降った雨水が本馬場に流れ、ぬかるみ等が発生する状況になっています。

また、昭和57年度に整備した排水処理施設も老朽化しています。

競馬場全体の施設配置を見直す中で、排水経路や排水処理施設の更新も含めて検討していく必要があります。

② ライフライン（上下水道、ガス）

競馬場内のライフラインの状況は次のとおりとなっていますが、競馬場内全体の整備に当たっては、管理主体の日高町や関係企業と連携して対応する必要があります。

■ 競馬場内のライフラインの状況

区分	状況
上水道	<ul style="list-style-type: none"> ・日高町設置の高架水槽より落差式給水により各建物に供給。 ・競馬場内の配管は石綿管で敷設されており更新時期。
下水道 (汚水)	<ul style="list-style-type: none"> ・日高町下水道本管に直接放流する住戸・管理施設系統と、汚水処理施設を介し下水道に放流する2系統で対応。
ガス配管	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地西側にあるプロパンボンベ庫から配管にて各建物に供給。



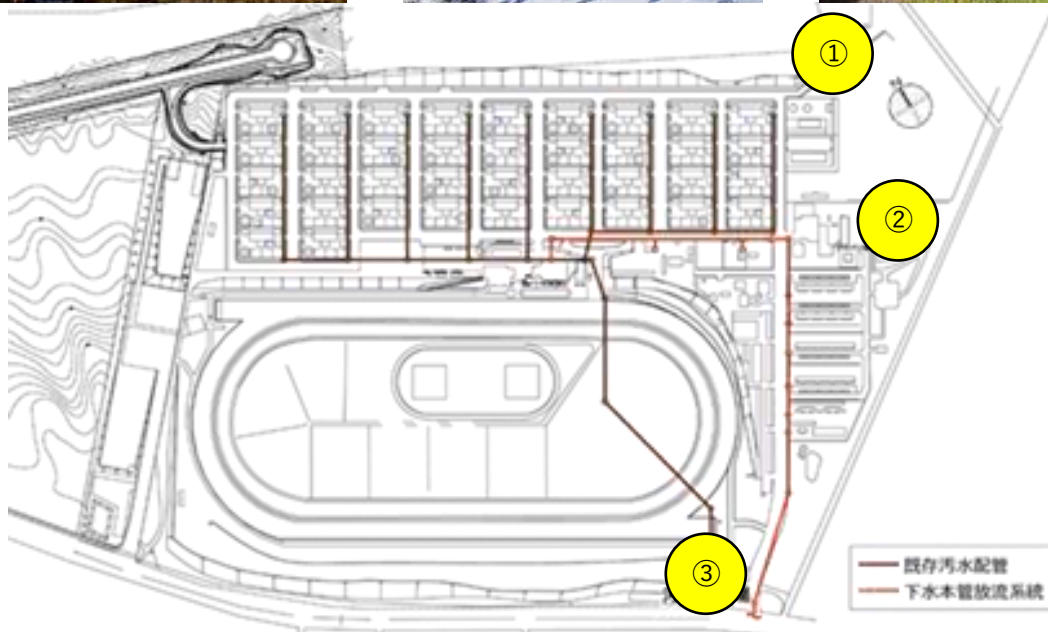
①給水塔



②プロパン庫



③汚水処理施設



4 課題のまとめと整備の方向性

2の「現状」を踏まえたエリア別の課題を解決する方向性として、以下の5つの観点に基づき、3つの方向性に沿って整備を推進します。

エリア別の課題	
きゅう舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年のきゅう舎の整備の方向性としてきゅう舎と居住の分離、すなわち「馬」と「人」の分離が必要（安全性・公正性の確保） <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災リスクの軽減 ・ 外部からの人の出入りを最小限にする ○ 老朽化とともに、柱や梁、屋根が朽ちてきている
居住エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 居住環境の悪化が、騎手やきゅう務員が定着しにくい要因の一つとなっており、居住環境の改善が必要
業務エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬実施上、様々な不具合があり、業務エリアの効率的な配置が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調整ルームから装鞍所までの距離が遠い ・ 本馬場へのアプローチが急な下り坂となっており馬が怖がる ・ パドックから本馬場へのアプローチがスタンド、検量棟を回り込む形式であり遠い など
来場者エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○ トレーニングセンターをベースとする競馬場なので、来場者エリアが狭隘で、JBCの継続実施や地元自治体等のイベント実施のためにも、広い来場者エリアが必要 など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬場全体の整備に合わせて、排水処理やライフライン（電気、上下水道、ガス）の整備も必要



整備の観点

- 1 安全性・公正性の確保
- 2 居住環境の改善
- 3 効率的な競馬実施
- 4 顧客収容キャパ確保、利便性確保
- 5 コスト低減



整備の方向性

- 1 競馬場エリアの拡大（近隣地確保）
- 2 きゅう舎と住宅の分離
- 3 業務エリア、顧客エリアの配置検討

5 整備の基本的な考え方

3の整備の方向性を踏まえた具体的な整備の基本的な考え方は次のとおりです。

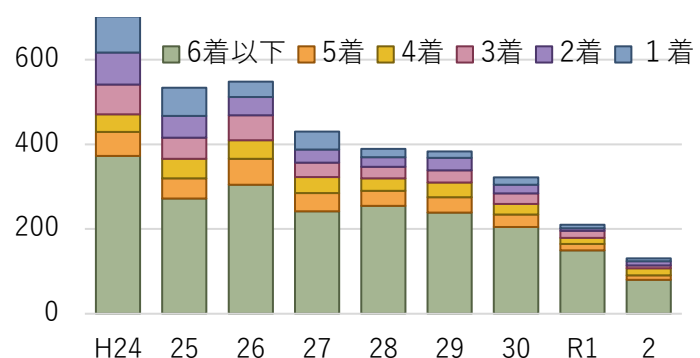
- ① 隣接町有地にきゅう舎エリアを移転
 - ・きゅう舎には住宅は併設しない（馬と人の分離）
 - ・きゅう舎数と馬房数は必要な競走馬の頭数や調教師などを踏まえ検討
- ② アパートや平屋の住宅含め、居住エリアを集約
 - ・居住者のニーズに合わせ集合住宅等を建設、市街地居住も検討
 - ・住居の建設に当たっては、財源は金融機関から調達するとともに、整備・運営も地元自治体や民間企業の協力を得ることを検討
- ③ 騎手や競走馬の動線短縮など効率性に配慮した業務エリアの集約・配置検討
 - ・装鞍所、検体採取所、診療所、調整ルームの集約、地下馬道の建設 など
- ④ ファンエリアの拡大検討
 - ・きゅう舎移転後のスペースを活用したファンエリアの拡大を検討
 - ・現状のスタンド等は建築後間もないので、そのまま活用を検討



■ きゅう舎数等の考え方

- ・調教師数は近年 35 名程度で推移、きゅう舎数は現状 38 棟
- ・認定きゅう舎からの出走頭数は坂路整備後減少傾向
- ・現状の馬房数は 912 馬房（38 きゅう舎×24 馬房）であり、競馬開催に必要な入きゅう舎数を考慮し、1 きゅう舎当たり馬房数や予備共同きゅう舎等の整備も検討

■ 認定きゅう舎出走頭数



6 整備概要

区分	名称	検討案	備考
きゅう舎 エリア	きゅう舎	24 馬房/棟×36 棟程度	
	インフラ・道路造成整備	構内馬道整備及び電気・水道	
	既存きゅう舎解体	38 棟	
	ウォーキングマシーン移設	36 基程度	
居住 エリア	調教師住宅		民間資金を 活用した整備 を検討
	きゅう務員等アパート（家族）	必要数を踏まえ別途検討	
	きゅう務員等アパート（単身）		
	既存建物取り壊し		
	インフラ道路造成整備	構内道路及び電気・水道	
業務 ・ 顧客 エリア	管理事務所	1 棟（総務、広報等）	きゅう舎・業 務エリアを再 編整備するこ とで、顧客エ リアのスペー スを拡大
	装鞍所	1 式（馬房、事務所、体重測定機）	
	検体採取所	1 式（事務所、馬脚洗場、馬房）	
	診療所	1 棟	
	厚生施設・調整ルーム	1 棟（隔離室、食堂、風呂等）	
	映像センターの移転・設置	1 式	
	既存建物取り壊し	事務所、装鞍所など1 式	
	インフラ道路造成整備	構内道路及び電気・水道	
その他	近隣地測量・伐採・造成費	山林 204,511 m ² の測量・伐採・整地	
	受変電設備・自家発電機	既存設備を活用しつつ、新規土地用の高 圧受電盤の整備	
	排水処理施設等		
	実施設計費・管理費		

(1) 財源

整備費用は、競馬事業の収入並びに北海道地方競馬事業経営安定基金による充当を基本とする。なお、整備費用の具体的な負担方法等については、競馬事業の経営状況等を踏まえ、毎年度の予算編成過程で検討する。

(2) 施工方法

整備は、門別競馬場を管理運営している一般社団法人北海道軽種馬振興公社が実施する。